

平成 20 年度第 3 回物理学教育 FD/IT 活用研究委員会議事概要

I. 日 時：平成 20 年 9 月 16 日（火）16:30-18:30

II. 場 所：社団法人私立大学情報教育協会 会議室

III. 出席者：藤原雅美委員長、松浦委員、満田委員、徐委員、太田委員、
寺田委員、藤原委員
井端事務局長、森下、恩田

IV. 議事概要

1. 物理学教育における学士力について

前回到引き続き、「物理教育に関する学士力」についての最終文案について議論した。

- 「委員メモ」として配布された資料の 4 つの文案が委員長より紹介された。
- 事務局より、最終文案の議論に入る前に、文案のスタイルについて、化学部会で進められている様式を参考に提案があった。
- 事務局より、配布資料「本協会による分野別「学士力」提言についてのご協力をお願い」についての説明があり、今回取りまとめる案については、9 月 22 日にインターネットでサイバーFD 研究員に発信し、9 月 29 日までに全国の教員から回答を求め、との説明があった。

次に、「委員メモ」の文案を、事務局提案の様式に従って、適宜分割し、理解しやすくするための議論がなされ、おおむね、文案 1-4 の前半と後半を、それぞれ一般的な教育の目標、および専門的な教育の目標に分ける方向で議論が集約し、以下のように 3 項目に分けることになった。

1. 物理学の基本法則と概念を認識している。
2. 自然現象に対して、仮説を立て、モデル化し、数理的に解析できる。
3. 実験結果により仮説を検証する科学的態度を身につけることができる。

項目 1 の「物理学」に関して、具体的に「力学」、「電磁気学」などの教科名を挙げる方が具体性があるとの意見がでたが、正確を期するためには教科数が多くなること、及び、「物理学」は教科間に独特の関連性があるため、それらをすべて包含した意味での「物理学」とする旨の意見がだされ、「物理学」と記述することで了承された。

項目 2 は、項目 1 の「基本法則」を導き出す上での、物理学の最も重要な過程を、到達目標としてできるだけ明快に記述すること、という制約で議論された結果の文案である。

項目3については、「科学的態度を涵養する」という案も議論されたが、学生の側に立つ到達目標にふさわしい、「科学的態度を身につける」ということで意見の合意をみた。

これらそれぞれの項目に、2－3行の解説をつけて、委員会の意図を補足することが決まった。項目1についての解説文は担当委員を決めて、原案を出していただくことが委員長提案で決まり、担当の委員を選出した。

2. 次回委員会

次回の委員会の日程について調整が行われ、10月25日（土）午前11時30分から午後1時30分と決まった。